

# テキサスゲートの設置による獣害被害軽減の試み（奈良県五條市）

- 柿生産団地全体を侵入防止柵（ワイヤーメッシュ柵）で囲い、道路（開口部）にテキサスゲート設置することで、ニホンジカ、イノシシの蹄が間隙に挟まり侵入を防止。
- 被害対策は侵入防止柵やテキサスゲートの設置だけでは不十分。侵入防止柵の点検や収穫残渣の処分などソフト対策が重要。

## ○従来の被害対策

- 柿生産団地ではイノシシ、ニホンジカによる柿の果実や新芽の食害等の被害が深刻化。
  - 被害対策は捕獲や侵入防止柵の個別設置が中心。
  - 柿生産団地を園地毎に侵入防止柵を設置するには、設置距離が長く維持管理が困難。生産団地の周囲に侵入防止柵を設置しても道路（開口部）からシカやイノシシが侵入。しかし、生産団地内の道路は市道のため、開閉式ゲートの設置は困難。



● テキサスゲート      〃 侵入防止柵



## ○取組の経緯

- 柿生産団地の管理組合から個別の園地を侵入防止柵で囲う場合（設置距離約17km）、団地全体を一括して柵で囲う場合（設置距離約6km）の柵の設置距離を地権者に提示。
  - 個々の園地を侵入防止柵で囲うことは柵の設置延長が長くなり維持管理が困難。園地毎の侵入防止柵設置ではなく、団地全体を一括して柵を設置することを確認。
- 団地内に市道があり、開閉式ゲートの設置が困難。
  - 管理組合と五條市で調整。道路占用許可により、テキサスゲート4カ所を設置し市道交通の利便性を確保。



- 侵入防止柵の点検などソフト対策を管理組合が主体となり実施。
- 落ち葉・流入土砂の掃除など日常の維持管理を管理組合が実施。
- 供用開始後、イノシシ、ニホンジカの侵入による農作物被害は見られない。



テキサスゲート整備前(左)と整備後(右)